

「橋梁は、地震にどこまで耐えられるか？」



平成19・20年度 橋梁耐震実験研究 研究成果発表会

* 本研究発表会は(社)土木学会認定CPDプログラムです。

主催:(独)防災科学技術研究所 共催:日本地震工学会 協賛:(社)土木学会

開催日:平成21年3月5日(木)

場所:世界貿易センタービル3階 A会議室(東京都港区浜松町)

(入場無料:90名先着順、参加希望者は、①氏名、②所属・役職、③連絡先住所・TEL・FAX・E-Mailを明記の上、2月25日までに担当までお申し込み下さい。)

プログラム

10:00~10:05:開会挨拶 梶原浩一(防災科学技術研究所)

10:05~10:35:大型橋梁耐震実験研究の概要

川島一彦 橋梁耐震実験研究実行部会委員長

10:35~10:50:橋梁耐震実験の必要性:運上茂樹(土木研究所)

10:50~11:05:E-Defenseを用いた橋梁耐震実験C1実験の概要:右近大道(防災科学技術研究所)

11:05~11:20:C1-1実験から何が分かるか:高橋良和(京都大学)

11:20~11:35:C1-1実験をどこまで解析でシミュレーションできるか:塚淳一(土木研究所)

11:35~11:50:質疑応答

11:50~13:00:休憩・昼食

13:00~13:15:C1-2実験から何が分かるか(その1):佐々木智大(東京工業大学)

13:15~13:30:C1-2実験から何が分かるか(その2):塚淳一(土木研究所)

13:30~13:45:段落し部の脆弱性について:幸左賢二(九州工業大学)

13:45~14:05:C1-5実験から何が分かるか:佐々木智大(東京工業大学)

14:05~14:20:実験計測データの精度検討:松崎裕(東京工業大学)

14:20~14:35:質疑応答(休憩)

14:35~14:50:鉄筋の材料特性について:葛西昭(名古屋大学)

14:50~15:05:三次元変位計測の理論と応用:新津靖(東京電機大学)・古屋治(東京都立産業技術高等専門学校)

15:05~15:20:C1実験ヘルスマonitoringについて:永田聖二(電力中央研究所)

15:20~15:35:大規模計算を使った崩壊までの解析シミュレーション:堀宗朗(東京大学)・小国健二(東京大学)

15:35~15:50:質疑応答(休憩)

15:50~16:05:C1-2実験事前解析コンテスト結果発表・表彰:睦好宏史(埼玉大学)

16:05~16:20:C1-2実験コンテストFEM部門解析結果発表:FEM部門優勝者

16:20~16:35:C1-2実験コンテストファイバーモデル部門解析結果発表:ファイバーモデル部門優勝者

16:35~16:50:質疑応答(休憩)

16:50~17:05:橋梁システム実験(C2実験)計画について:矢部正明((株)長大)

17:05~17:20:C1-6実験(H21年度)計画について:川島一彦(上記)

17:20~17:25:閉会挨拶 梶原浩一(防災科学技術研究所)

注)なお、講演者、発表内容につきましては、予告無しに変更される場合があることをご了承下さい。

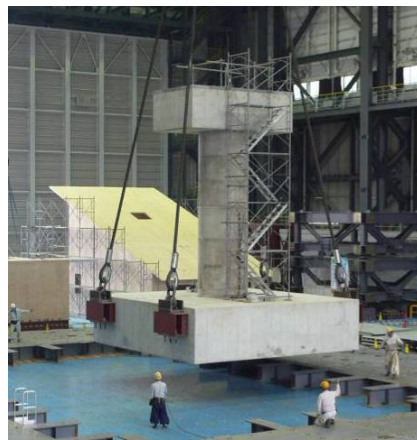


試験橋脚の特性

- ・C1-1:1970年代に建設された段落しのないRC橋脚(基部曲げ破壊)
- ・C1-2:1970年代に建設された段落しのあるRC橋脚(段落し部せん断破壊)
- ・C1-5:現在建設されているRC橋脚
上部構造全重量 300~370t程度
RC橋脚断面 ϕ 1.8~2.0m
RC橋脚柱部高さ h=7.5m
RC橋脚柱部質量 約90t
フーチング寸法
7×7×2m 約245t



C1-1実験後



C1-5(1)実験後



C1-5(3)実験後



C1-2実験後

